

## 16

# 京都府<sup>きょうと</sup>京都市 (人口:約1,470,000人)

## 得意分野に磨きをかけ 「創業5年後の生存」を 支援の目標に据える

創業後、事業が軌道に乗るまでの時期は、どの創業者にとっても困難な時期である。そこで同市は創業支援の成果を、事業の継続にあると位置付けた。創業5年経過後に健全な経営が継続していることを成果の目安と捉え、それを達成するためには、支援内容にしっかりとした強み・特徴を備えた支援機関である必要があるとする。



### 計画策定の経緯

#### 「知」と「人」の集積 という伝統の継承を めざす

京都市は古来より、域内住民が生活上必要な需要に対応するための製造業と、その交易のための商業が高度に発達した商工業都市である。そうした経緯から、現在我が国を代表する独自色豊かな製造業企業やサービスが誕生してきた歴史を持つ。

しかし、そうした歴史を持つこ

とができたのは、京都という地に「知」「人」といった要素が集積してきた伝統があつたこと（大学数：38、宗教法人数：2,409、国宝数：210／全国国宝数の約20%）。そうした要素をこれからも継承していくためには、過去の成功に固執せず、「京都」という町を挙げて新たな情報や知恵を取り込んでいく姿勢が必要であり、その努力なしに繁栄は続かない。

また、従来同市の強みであつたはずの製造業と商業の衰退傾向が顕著なため（製造品出荷額は平成

2年:約3兆3千億円→平成24年:約2兆円、年間商品販売額は平成3年:約2兆1千億円→平成23年:約1兆6千億円）、同市は創業支援事業計画を、未来の発展に向けた総合戦略に組み込む意図をもって策定した。

### 連携支援の特徴

#### 現場レベルの活発な コミュニケーションでの 情報共有を重視

特徴は主に以下の3点が考えら